

2 米はどのようにして作られるの？

米はイネという植物の（果）実です。

おいしい米を作るために、苗作りから収穫まで半年以上もかけて丈夫なイネを育てます。また、最近では、田植え、草刈り、農薬・肥料の適量散布などをロボットやドローン、人工知能（AI）など先端技術を活用し、省力化、品質や収量の向上を目指す新たな取り組み（スマート農業）が進んでいます。

① 苗作り



イネは苗を育てて、それを田んぼに移し植えます。そこでまず、苗作り専用の箱に土を入れ、イネの種もみをまきます。毎日水やりをし、温度管理に注意します。

② 田おこし



田んぼの土をやわらかくするため、トラクターなどを使って、田んぼの土を耕し、肥料をまきます。

③ 代かき

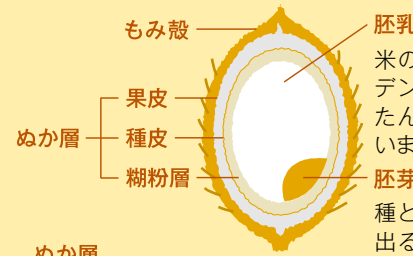


田んぼに水を入れて、耕運機で土の表面を平らにします。土のかたまりを細かくして、水の深さを揃えます。



米の構造はどんななの？

もみの外側を覆っているかたいもみ殻を取り除いたものが玄米です。玄米は、胚乳と胚芽、ぬか層から成っています。



米の大半を占めています。デンプン（炭水化物）とたんぱく質などを含んでいます。

種として吸水すると芽が出るもとなる部分です。たんぱく質、脂質に加えて、ビタミン類、ミネラルや食物繊維などが多く含まれています。

ぬか層

胚乳の外側を覆っていて3層構造になっています。脂質、たんぱく質、ビタミン類、ミネラル、食物繊維などが豊富に含まれています。

ドローンを使ったスマート農業



米づくりのこよみ



④ 田植え



イネの苗の長さが12~13cm、葉が3~4枚くらいになったら4~5本を1株として田植機などで田植えをします。

⑤ 田んぼの手入れ



イネがよく育つように、草取り機で雑草を取り除いたり、病害虫の駆除をします。気温が低いときには水をたくさん入れて防寒対策などをします。

⑥ 茎が伸びる



苗として植えられた1本のイネの根元から茎の数が増えて、どんどん伸びます。伸び終わると、茎の中には穂ができてきます。

⑦ 開花



茎の中から、うす緑色の穂が出てきます。1つの穂には100~200個の花が付き、その白い花が咲くのは約2時間だけです。そして、この花がもみ（米）になります。

⑧ 収穫（稲刈り、脱穀）



自花受粉してもみができ、熟して重くかたくなり、穂の実りが終わるころには、もみが成熟して穂が黄金色になり、葉や茎も黄色くなって収穫期を迎えます。コンバインなどでイネを刈り取り、イネの穂からもみを取る脱穀を行います。

収穫されたもみはカントリーエレベーターへ



カントリーエレベーターは大きな共同乾燥調製貯蔵施設のことです。ここでは、乾燥・貯蔵・もみすり・玄米出荷を一貫して行っています。